

# 社会的包摂の観点からみた 参加型地域防災の課題

松田 曜子

関西学院大学災害復興制度研究所

阪神・淡路大震災以降、我が国の防災の取り組みに「参加型」が多く取り入れられるようになった。こうした手法では多様な主体によって進められてきたが、他者との協働を遂行する住民の結束力など、個々の地域が持つ力の差によって参加の機会が偏ったり、失われたりする地域も出てくるということが問題になる。また、災害に備えて守るべき対象を失っている状態（社会的排除）にある人にとっては、防災に参加する動機もまた奪われた状態にあると言える。本稿では社会的排除／包摂の考え方を整理し、社会的包摂の視点を早くから導入していた公衆衛生分野の研究との比較を行い、今後の参加型防災にも個別要因への働きかけから社会環境そのものに介入するアプローチへのシフトが求められることを述べる。

キーワード：社会的包摂，参加型防災，格差